

鳴門市総合学術調査の報告にあたって

徳島県立図書館長 松 浦 博

このたび鳴門市の総合学術調査結果がまとまり、その報告書として「阿波学会紀要第61号」を発刊するはこびとなりました。

この学術調査は、昭和25年の徳島県立図書館主催の学校教員の夏休み期間を利用した「東祖谷山村」の調査に端を発し、昭和29年に県内18学会が統合して「阿波学会」が発足し、当館との共催事業となつてから62年という全国的にもまれに見る歴史を持っています。毎年1市町村ずつ調査を実施し、平成24年度の東みよし町「旧三加茂町」で県内旧50市町村を一巡し、平成25年の阿南市から二巡目がスタートしました。

前回の昭和39年調査から52年が経過し、高度経済成長、大鳴門橋開通さらには神戸・鳴門ルート of 全通、製塩から製薬へと主要産業の変遷などにより、鳴門の風景も大きく変わりました。今回、鳴門市全域を前回調査と比較すると共に新たな発見を目指しつつ、各班のテーマに沿って調査を進めました。通年にわたる調査に加えて、平成27年度の集中調査は7月の結団式から10日間、また平成28年度の集中調査は4月の中間発表会から10日間を、16調査班100名前後の会員が参加して実施しました。この成果が鳴門市の地域環境の保全や文化財の研究、観光の振興等の一助となり、鳴門市の発展に少しでも貢献できれば幸いです。

県立図書館でも、今回の調査研究内容を館内のレファレンスや郷土資料としても大いに活用し、県民への情報提供を通じて郷土徳島の再発見や社会生活の向上に役立てたいと考えています。また、これまで「阿波学会紀要」として刊行された冊子をデジタル化し、内容を検索することも可能となっており、当館HP「デジタルライブラリー」からアクセスすることができますので、御活用ください。

今回の調査に当たりまして、格別の御理解と御協力をいただきました泉理彦市長をはじめ鳴門市教育委員会の関係者の方々、御協力をいただきました地域の方々、また、猛暑の中、あるいは寒風の中、熱心に鋭意調査いただき、分析研究報告をいただきました石田啓祐会長をはじめ阿波学会会員の皆様に、紙面をお借りいたしまして心より厚くお礼申し上げます、発刊に当たりましてのあいさつとさせていただきます。